

「世界人講座」など企画 波多野さん

「学び手が主体に」

菊陽で講演

小国町で、食農教育や、外国人を招く「世界人講座」など独自の取組を行う「寺子屋T.A.O塾」主宰の波多野敦さん(46)が同町高野原で菊陽町原水の町図書館ホールで「新たな学びのかたち」の題で講演し、自身の活動をともに、教育のあり方について語った。写真。

T.A.O塾は94年、小国町出身の波多野さんが開講。町内の子どもを対象に、英語や数学、習字の教室を開く一方、食育を目的とした料理教室や、併設する農場での農業体験も実施している。

同塾の目玉は、外国人を招いて自由に語ってもらう「世界人講座」や、町内外で活躍する人を招いて開く「社会人講座」。「広い視点を持ってほしい」と波多野さんが企画した。これまでに世界人講座には約60人、社会人講座には町長や農家、医師、国連上席顧問ら約90人が講師を務めた。当初は塾に通う子が対象だったが、今では町内外から参加者がある。

8月30日の菊陽町での講演で波多野さんは、塾に30種類以上あるという世界地図のうち上下が逆のものや、日本が端にあるものなどを示し「見方の転換が大事だ」と述べた。さらに「講演は一方的に話を聞くのではなく、学び手が自ら主体となることが重要。インタビューになっても、より印象に残る」と話した。



教育は

今週の五

無から
うまれ
無に還るといふ
この世は
祈りの海であらう